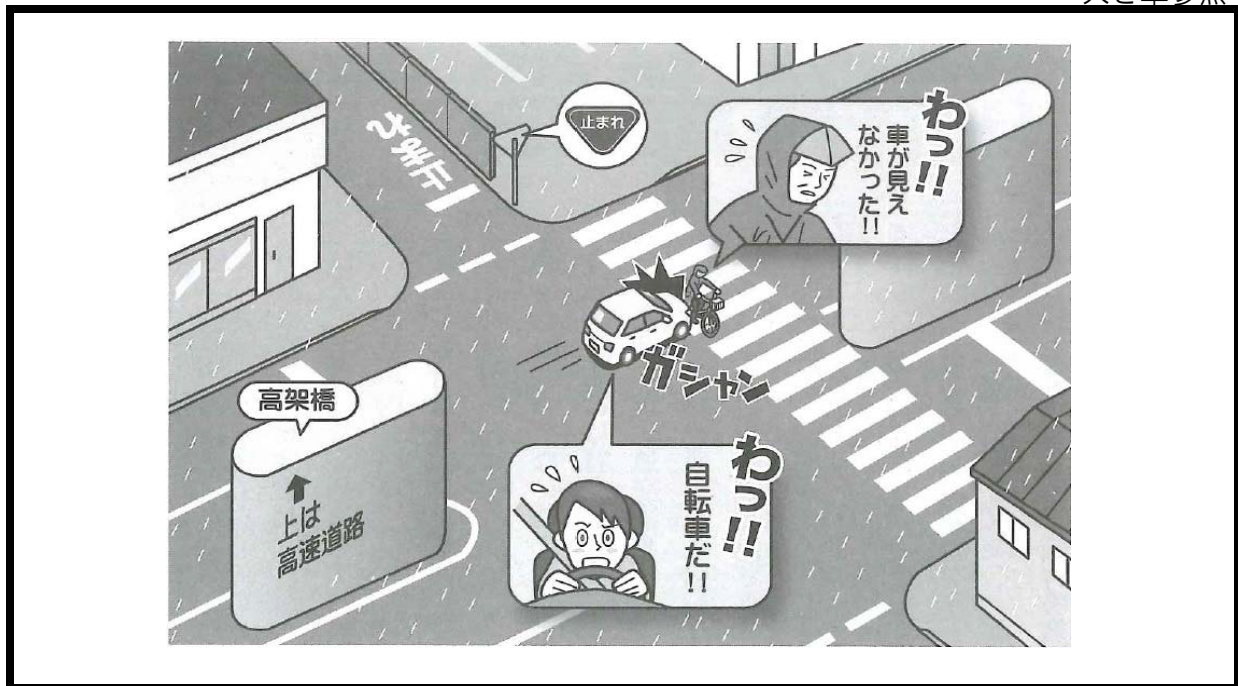


■事故の概況

人と車参照



事故類型：出会い頭

発生日時：雨天 朝

当事者A：普通乗用車 20歳代 男性

当事者B：自転車 70歳代 女性

■ 事故の概要

Aは2年前から通勤で利用している道路をいつもと同じ時間帯に走行していました。信号のない交差点に差し掛かった時、前方の横断歩道をBが横断し始めるのに気づき急ブレーキをかけましたが、濡れた路面でスリップしてしまい、停まり切れずにBに衝突しました。

Bは合羽を着用し、そのフードを被り自転車を運転していました。道路横断開始前から横断中に合羽のフードにより視界が制限されていたこともあり、正面しか見ておらず、事故に遭うまでAの運転する車の存在にも気付いていないようでした。

■ 事故から学ぶ

Aの漫然運転によりBの発見が遅れたことが原因です。Aはこの道路を利用し始めてから自転車や歩行者が自車の目の前を横断する状況に遭遇したことがなかったため、車両や人が路上に出てくるかもしれないという意識が湧かず、それによる前方不注意がこの事故の主要因と考えられます。

しかし、Bが合羽のフードを被ることにより視界が狭くなることを意識し、道路横断前に丁寧に安全確認をしていれば、Aの車の存在に気づき、事故を防ぐことができたかもしれません。

Aが歩行者や自転車が出てくるかもしれないと考えながら運転し、Bが立ち止まり、左右の安全を確認するという、信号機のない交差点における基本的な交通ルールを守っていれば発生しなかった事故と思われます。